

社会保険業務センター視察の概要
(高井戸～三鷹庁舎)

1. 日時

平成19年8月30日(金) 14:00～16:00 高井戸庁舎
16:45～17:20 三鷹庁舎

2. 出席委員

本田座長、小嶋委員、斎藤委員、八田委員

3. 対応者

社会保険業務センター 中野所長、池永総務部長、藤田業務部長、柳澤
記録管理部長ほか
社会保険庁(本庁) 高橋企画室長

4. 概要

①庁舎内視察(高井戸庁舎、三鷹庁舎)

②主な質疑応答

- ・ID・パスワード受付・発行状況について、平成19年6月に505, 836件受け付けているのに対し、発行件数が116, 457件となっているのは何故かとの質問に対し、ID・パスワードの発行は、週次ためこみで処理をするため、基本的にタイムラグが生じる。また6月以来、急激に依頼が増え、HPで明言している2週間以内での発行ができなかった。しかし、人員増の効果もあり、現在はかなり落ち着き、ほぼ予定どおりに発行をしている(ただし、個人情報が一致しない場合については、その確認作業のため、2週間では発行できない)との回答があった。
- ・三鷹庁舎とはきちんと連携ができているのかとの質問に対し、平成23年には、記録管理のシステムの一元化を予定しており、高井戸に三鷹の機能を集約させる。そのため、この秋から高井戸庁舎の工事を始める予定との回答があった。
- ・集約させるのは賛成だが、大地震やテロ対策のためのバックアップ(リスク分散)はどう考えているのかとの質問に対し、バックアップについて、その必要性は認識している。ただし、この問題は社会保険庁のみならず、厚生労働省とも協議が必要な内容。今後前向きに協議していきたいとの回答があった。

- ・今後のシステムは開発は厚生労働省、運用は日本年金機構になると聞いているが、それは問題ないのか。また全国健康保険協会と日本年金機構の足並みが揃わないままでスタートするが、それはシステム上問題ないのかとの質問に対し、平成16年に刷新可能性調査を三鷹・高井戸双方でしており、平成17年度の最適化計画にも反映させている。そういう意味では、ねんきん年金事業機構法案の廃案で発足時期こそずれてしまったが、業務そのものが変わる訳ではないので、問題はないと考える。大事なのは業務の効率化、つまりコンピュータの刷新である。平成23年度をとりあえず第一弾としたい旨の回答があった。
- ・職員の人数とその内訳はとの質問に対し、600名弱が本庁採用の正規職員で、残り150名前後が派遣などの非常勤職員である。内訳は正規職員が、総務部116名、情報管理部が115名、業務部が247名、記録管理部が52名、中央年金相談室39名、非常勤職員、総務部約20名、情報管理部が数名、業務部が約90名、記録管理部が約30名、中央年金相談室約10名。約6対4で男性が多いとの回答があった。
- ・ITの専門家はいるのかとの質問に対し、今までのNTTデータまかせの体質を反省し、昨年から6～7名のIT技術者を民間から採用している。また現在はITの研修にも力を入れている旨の回答があった。
- ・常勤職員と非常勤職員の業務区分や業務形態についての明確な区分はあるのかとの質問に対し、詳細を確認し、後日回答する旨の回答があった。
- ・非常勤職員の勤務時間、また勤続年数は何年かとの質問に対し、勤務時間は一日7時間。勤続年数はまれに10年近い人もいるが、平均3年(3年更新)で、上限は特には設けていないとの回答があった。

〈文責：行政改革推進本部事務局〉

--以上--